

札幌市における国際会議等 誘致の取組と現況について



札幌市

目次

1. コンベンション開催地としての札幌市の特徴・・・・・・・・・・ 1
(学術分野／重点産業分野／GX・金融分野)

2. 国際会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
(JNTO・ICCA基準／主な政府系国際会議)

3. ASEANTA総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

4. 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
(札幌市内の主なMICEエリア／札幌コンベンションセンター／
札幌の主な宿泊施設／サステナブルなMICE都市・札幌／
北海道・札幌のホスピタリティ)

コンベンション開催地としての札幌市の特徴①

1

(学術分野／重点産業分野／GX・金融分野)

【札幌市に強みのある学術分野】

地球惑星科学	感染症学
地球科学に関する論文被引用数：国内 2位 市内には、宇宙関連のベンチャー企業が集積 ●2023年8月 第35回国際電波科学連合総会（URSI GASS） *秋篠宮皇嗣殿下御臨席、日本学術会議共同主催	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 新型コロナウイルスをはじめとした人獣共通感染症に特化した世界初の研究機関でありWHOに協力
低温科学	獣医学・酪農学
北海道大学低温科学研究所 70年以上にわたる寒冷圏及び低温条件化における科学的現象の研究 ●2022年8月 第29回低温物理学国際会議（LT-29） *日本学術会議共同主催	動物・植物学論文被引用数：国内 3位 都市の中心部に58haの北海道大学札幌農場が広がり、獣医学・酪農学研究が盛ん ●2018年8月 第30回世界牛病学会（WBC）

※JNTO「Japan：Competitiveness in Academia and Industry – Introduction of Excellent Cities」より

【札幌市の重点産業分野】

観光 / 食 / 環境（エネルギー） / 健康福祉・医療 / IT・クリエイティブ

【新たに誘致を強化していくGX・金融分野】

（GX8分野）

SAF / 水素 / 洋上風力関連産業 / 蓄電池 / 次世代半導体 / 電気及び水素運搬船 / 海底直流送電網 / データセンター

（金融）

【近年の主な国際会議】

2022年 9月	第22回国際真空学会（IVC-22） ※日本学術会議共同主催	<2,000人>
2023年 9月	アドベンチャー・トラベル・ワールド・サミット（ATWS）	<800人>
2024年 7月	第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議	<750人>
<今後開催予定>		
2024年11月	第8回アジア太平洋作業療法学会（APOTC）	<1,400人>
2026年 9月	第11回国際セラミックス会議（ICC）	<1,300人>
2030年	第24回世界神経放射線学連盟シンポジウム	<2,000人>

コンベンション開催地としての札幌市の特徴②

2

(GX・金融分野)

■北海道・札幌市が目指す姿(GX金融・資産運用特区)

■ 2023年4月15日「G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」

- G 7 大臣会合の札幌開催の機会を捉え、脱炭素を通じてエネルギーの地産地消と道内経済の活性化、日本及び世界のGXに貢献していくことについて、「脱炭素社会の未来を拓く北海道・札幌宣言」を発表。



■北海道・札幌が有するポテンシャルの高さ

- 今後10年間で150兆円超ともいわれるGXの官民投資
- 国内随一の再生可能エネルギーのポテンシャル
- 都市と自然が調和した世界でも類を見ない魅力的な街

■「GX金融・資産運用特区」を通じて、目指す姿

- 「国家戦略特区」と「金融・資産運用特区」を活用 (2024年6月指定)
- 資産運用会社等の金融機能を北海道・札幌に集積
- GX産業のサプライチェーン構築・雇用創出
- 日本の再生可能エネルギー供給基地の構築
- アジア・世界の金融センターの実現

目指す姿



コンベンション開催地としての札幌市の特徴③

3

(GX・金融分野)

■我が国のGXをリードする北海道「投資ポテンシャル」

全国一の再エネポテンシャル

- 【風力発電】 全国1位
- 【太陽光発電】 全国1位
- 【中小水力発電】 全国1位
- 【地熱発電】 全国2位

海底直流送電網

＜広域連携系統マスタープラン＞

【必要投資額(概算)】

- ・北海道地域内増強
⇒約1.1兆円
- ・北海道～東北～東京(新設)
⇒約2.5～3.4兆円



次世代半導体

＜半導体・デジタル産業戦略＞

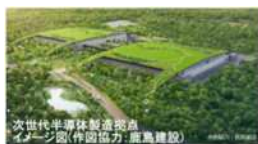
- ・全世界の出荷額

2020年約50兆円 ⇒ 2030年約100兆円

▼ラピダス社の立地決定

⇒総額5兆円規模の投資見込 (同社による)

⇒関連産業の立地表明が相次ぐ



Rapidus制作成資料



洋上風力関連産業

- ・45GW導入時の経済波及効果(経産省試算)

⇒2050年 約2兆円

- ・(参考)洋上風力産業ビジョン

⇒2040年に全国で45GW

データセンター

＜情報通信白書(総務省)＞

- ・日本のDCサービス市場規模 2022年約2兆円

⇒2026年 約3兆円

＜デジタルインフラ(DC等)整備に関する有識者会合「中間取りまとめ2.0」＞

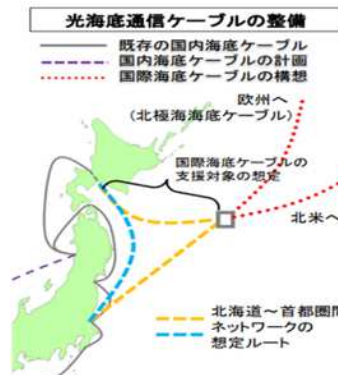
- ・北海道にデータセンターの中核拠点を優先的に整備

- ・ソフトバンク社が再エネ100%のデータセンターの立地決定

＜デジタル田園都市国家インフラ整備計画＞

- ・2025年度迄に日本周回ケーブルを整備、陸揚局も分散立地

※北海道では国際海底ケーブルの陸揚げ実現を目指している



SAF

＜GX実現に向けた基本方針＞

- ・製造技術開発、大規模実証、製造設備等への官民投資

⇒今後10年間で約1兆円【全国】

蓄電池

＜蓄電池産業戦略＞

- ・世界市場の推移
2019年約5兆円

⇒2030年 約40兆円【世界】

水素

＜水素基本戦略＞

- ・2030年導入目標300万tに加え、
2040年目標1200万t
2050年目標2000万t

・官民合わせて15年間で15兆円【全国】
のサプライチェーン投資計画を検討中

コンベンション開催地としての札幌市の特徴④

(GX・金融分野)

4

■ 国の取組（規制の特例措置等）

G X

×

金 融

風力・
再エネ

洋上風力発電設備の設置・保守に係る外国籍船の利用及び外国人材の活用

排他的経済水域における洋上風力発電設備の設置

水素

圧縮水素の貯蔵量上限の緩和

高度人材
確保

高度人材ポイント制の特別加算の対象となる自治体の支援措置の明確化

英語行政
手続き

資産運用業に対する英語による金融行政の拡充（「拠点開設サポートオフィス」の設置）

日本参入時の法人設立に伴う手続きに関する英語対応（外国人銀行口座の開設支援を含む）

資金調達・
金融支援

スタートアップへ投資する外国人投資家向け在留資格の創設

銀行によるGX関連事業に対する出資規制の緩和

※北海道・札幌が提案したうち、実現性のある取組みについて「金融・資産運用特区実現パッケージ」から抜粋

コンベンション開催地としての札幌市の特徴⑤

5

(GX・金融分野)

■地域の主体的な取組



快適なビジネス環境の整備

- ①規制緩和等(札幌市)
行政手続の英語対応(住民登録・住民票、
印鑑登録・印鑑証明書の英語化)
- ②税制優遇等(道税・市税)
金融機能の強化集積、GX産業集積
- ③高機能オフィス確保(容積率緩和等)
- ④丘珠空港のビジネスジェット利用促進
- ⑤諸外国から新千歳空港への直行便の拡充

⑥ビジネス・暮らしの英語ワンストップ相談窓口の開設

- ・英語でビジネス及び従業員の暮らしに関する相談対応
- ・英語対応可能な保育、教育、病院等の情報提供
- ・英語対応専門の土業確保
- ・各種手続きの代行サービス



魅力溢れる生活環境の整備

- ⑦インターナショナルスクール誘致、新たな国際
バカロレア(海外大学でも通用する国際教育
プログラム)導入校の設置検討
- ⑧キャッシュレス化の促進
- ⑨外国人の安全・快適な移動に資する案内
サイン等の充実



誘致活動・情報発信の強化 スタートアップ・人材育成の強化

- ⑩海外資産運用会社等の誘致強化
- ⑪GX事業を行う企業の誘致強化・ビジネスマッチング拡充
- ⑫スタートアップ創出・育成強化、ビジネスマッチング拡充
- ⑬GX情報プラットフォームの構築、GX事業認証制度の創設
- ⑭人材確保・人材育成の強化(普及啓発・情報発信)
- ⑮GX、環境金融関連の国際会議・イベント等
による情報発信強化

国際会議の開催状況①

(JNTO・ICCA基準)

6

【国際会議開催件数（2017年～2022年）】

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	
JNTO基準	116件	109件	102件	2件	0件	23件	国内5位
ICCA基準	24件	20件	25件	－	－	15件	国内3位

【ICCAランキング（2023）】

都市名	件数	国内順位	アジア・パシフィック	世界順位
東京（23区）	91件	1位	3位	13位
京都市	41件	2位	10位	52位
大阪市	20件	3位	23位	116位
横浜市	20件	3位	23位	116位
福岡市	17件	5位	30位	133位
札幌市	17件	5位	30位	133位
仙台市	15件	7位	34位	150位

【基準項目】	ICCA（国際会議協会）基準	JNTO基準
【主催者】	国際機関・国際団体（各国支部を含む）または国家機関・国内団体（各定義が明確ではないため、民間企業以外は全て）	
【参加者総数】	50名以上	
【参加国】	3か国以上で会議の持ち回りがある （2か国間会議は除外）	日本を含む3か国以上
【その他】	定期的に開催される （1回だけ開催されたものは除外）	開催期間：1日以上



国際会議の開催状況②

(主な政府系国際会議)

7

開催年月	会議名	参加者数 (うち海外参加者数)
2010年6月	2010年日本APEC貿易担当大臣会合及び関連会合	2,500人(2,200人)
2012年6月	第27回アジア消防庁協会総会	528人 (71人)
2013年7月	国際電気通信連合 無線通信部門SG5WP5D第16回会合	185人 (155人)
2013年11月	第13回日中韓特許庁長官会合	225人 (25人)
2013年11月	第4回日インドネシア交通次官級会合	70人 (40人)
2014年2月	国際電気通信連合電気通信標準化部門 第16研究委員会 (ITU-T・SG16会合)	232人 (146人)
2015年9月	第7回日・ASEAN諸国防衛担当局次官級会合	50人 (47人)
2018年1月	第3回日・ASEAN航空協定交渉会合	34人 (25人)
2019年12月	第7回中小企業協力に関する日露会合	103人 (22人)
2023年4月	G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合	約650人 (約270人)

▼ 2010 日本APEC貿易担当大臣会合



▼ 2023 G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合



■ASEANTA（東南アジア諸国連合観光連盟）について

○ASEANTAについて

1971年に設立の非営利団体であり、ASEAN10カ国の政府観光局、ホテル協会、旅行業協会、航空会社等から構成

○年次総会の誘致

- ・ ASEAN主要国の旅行業界代表や政府観光局等のキーパーソンが参加する総会の誘致に、2019年度から取り組む
- ・ 2021年に札幌コンベンションビューローがASEANTA準会員として国内初加盟。2023年にはASEANTA幹部やASEAN域内の旅行会社を招請するとともに、札幌市長がマレーシアを訪問し、ASEANTA幹部へのトップセールスを実施
- ・ 2023年12月、ASEANTA年次総会の札幌開催が決定（ASEAN域外で初開催）

ASEANTA総会②

9

■ ASEANTA年次総会及び関連事業の開催

2024年5月8日～11日の期間中、年次総会を開催するとともに、関連事業として、ユニークベニューを活用した情報交換会、エキスカーション、シンポジウムを実施。札幌・北海道の魅力に触れていただくとともに、国内・市内観光業界幹部との交流の場を創出

ユニークベニューを活用した情報交換会 ※ 観光庁実証事業

国指定重要文化財「豊平館」において、アイヌ文化を活用し北海道ガストロノミーを提供するレセプションや、札幌コンサートホール「kitara」において、大ホールのステージ上でのオクテット鑑賞、エントランスホールでの特別な空間演出によるレセプションを実施



豊平館
北海道の自然、森を
イメージした空間を創造



札幌コンサートホール「Kitara」
「My Orchestra」
プログラム
花 x 音楽 x 光の協演による
特別な空間を創造



日付	行程
5/8 (水)	参加者各自到着、チェックイン ・市内視察（時計台、大通公園、赤レンガ庁舎等） ・情報交換会 ・札幌国際プラザ理事長主催歓迎情報交換会 会場：豊平館 宿泊：札幌市内
5/9 (木)	・市長表敬 ・市内視察（大倉山ジャンプ競技場、北海道神宮等） 関連団体会議（エアライン） 昼食：エルムガーデン ・ASEANTA年次総会・役員会 会場：札幌パークホテル ・札幌市長主催歓迎情報交換会 会場：札幌コンサートホールKitara 宿泊：札幌市内
5/10 (金)	・ASEAN-札幌/日本MICEリーダーズシンポジウム 会場：京王プラザホテル札幌 ・エキスカーション（定山溪温泉、札幌国際スキー場） 宿泊：ニセコ
5/11 (土)	・エキスカーション（ニセコ） 帰国

■ ASEANTA年次総会及び関連事業の開催

ASEAN-札幌/日本MICEリーダーズシンポジウム

日本・ASEANの観光・MICEに関する共通の課題や今後の展望について、ASEANTA会長、日本政府観光局による基調講演、パネルディスカッションのほか、地元MICE事業者とのネットワーキングを開催



ASEANTA 4名、日本旅行業協会、北海道観光振興機構、札幌市長とのパネルディスカッション



ASEANTA会員、シンポジウム講演者・パネラー

札幌市内近郊エクスカーション

札幌・北海道ならではの、桜と雪を同時に楽しめる季節の魅力を感じていただくため、南区にある「小金湯さくらの森」等で桜を鑑賞した後、札幌国際スキー場で雪を体験。その他、大倉山ジャンプ競技場でのオリンピック金メダリストによる案内等を実施



大倉山ジャンプ競技場



札幌国際スキー場

<参考> 札幌市内の主なMICEエリア

11

【北海道大学】

- ・学術交流会館（ホール310席、196席ほか）

【大通公園エリア】

- ・市民交流プラザ（ホール2,300席ほか）
- ・札幌市民ホール（ホール1,500席ほか）
- ・札幌市教育文化会館（1,100席ほか）
- ・札幌プリンスホテル（大宴会場1,000㎡ほか）
- ・グランドメルキュール札幌大通公園（旧ロイトン札幌、ホール1,607㎡ほか）

【札幌コンベンションセンター】

- 大ホール2,607㎡、特別会議場692㎡、中ホール564㎡、小ホール193席ほか15の会議室

【札幌ドームエリア】

- ・札幌ドーム（55,000㎡）
- ・月寒新展示場（15,000㎡）R9秋予定



<参考> 札幌コンベンションセンター

12

■ 施設概要

- ・敷地面積 41,019㎡、延床面積 20,310㎡
- ・大ホール (2,607㎡)、特別会議場 (692㎡)
中ホール (564㎡)、小ホール (193席固定)
中・小会議室 (15室)
- ・指定管理者：SORA-SCC共同事業体
(株)コンベンションリンクージ、(株)東洋実業



2003年の開業以来、多くの政府系国際会議や学会の開催実績あり

(主な実績) 2010APEC貿易大臣会合、Adventure Travel World Summit 2023(ATWS)、2023ASEAN交通次官級会合、URUSI GASS2023 (第35回国際電波科学連合総会)

感染症対策の国際認証「GBAC STAR™」取得 (2021年12月)

国際衛生供給協会 (ISSA) の感染症予防対策に関する部門であるグローバルバイオリスク諮問委員会 (GBAC) による国際認証



再生可能エネルギーの活用

- ・札幌市における代表的な大型コンベンション施設である札幌コンベンションセンターでは、環境負荷低減に向けた積極的な取組を推進

・再生可能エネルギー 100%電力の導入

- ・屋上への太陽光パネルの設置などによる再生可能エネルギーが活用されているほか、夜間に外気温が低くなる地域特性を活かし、夏季は夜間に窓を開放し、館内の気温を下げ、日中の冷房利用を抑制するなど、省エネ化を推進



<参考> 札幌の主な宿泊施設

13

■ 市内主要ホテル

【大通公園エリア】

- ・札幌プリンスホテル（587室）
- ・グランドメルキュール札幌大通公園（291室）など



▲ 札幌プリンスホテル

【すすきの・中島公園エリア】

- ・札幌パークホテル（216室）
- ・プレミアホテル・TSUBAKI・札幌（322室）
- ・ホテルマイステイズプレミア札幌パーク（216室）
- ・プレミアホテル中島公園札幌（225室）など



▲ 札幌パークホテル



札幌市内のホテル

- ホテル数 362軒
- 客室数 34,339室
- 定員数 73,729人

【札幌駅エリア】

- ・JRタワーホテル日航札幌（342室）
- ・京王プラザホテル札幌（493室）
- ・札幌グランドホテル（449室）
- ・ANAクラウンプラザホテル札幌（412室）など



京王プラザホテル札幌 ▶

外資系ハイグレードホテルオープン予定

【すすきの・中島公園エリア】

- ・インターコンチネンタルホテルズ&リゾーツ（149室）
2025年10月開業予定

【札幌駅エリア】

- ・ハイアットセントリック札幌（216室）
2026年夏ごろ

<参考> サステナブルなMICE都市・札幌

14

■ サステナブル都市への歩み

- ・豊かな自然環境を保全、世界に誇れる環境都市を目指し2008年に「環境首都・札幌」を宣言
- ・日本の都市として初めて、「LEED for Cities and Communities」最高ランク「プラチナ」認証を取得



■ 札幌市のSDGs戦略

札幌市ゼロカーボンシティ宣言_2020年

札幌市気候非常事態宣言／札幌市気候変動対策行動計画_2021年

➡2050年**温室効果ガス排出量の実質ゼロを宣言**し、同計画を策定

札幌市SDGs未来都市計画_2021年

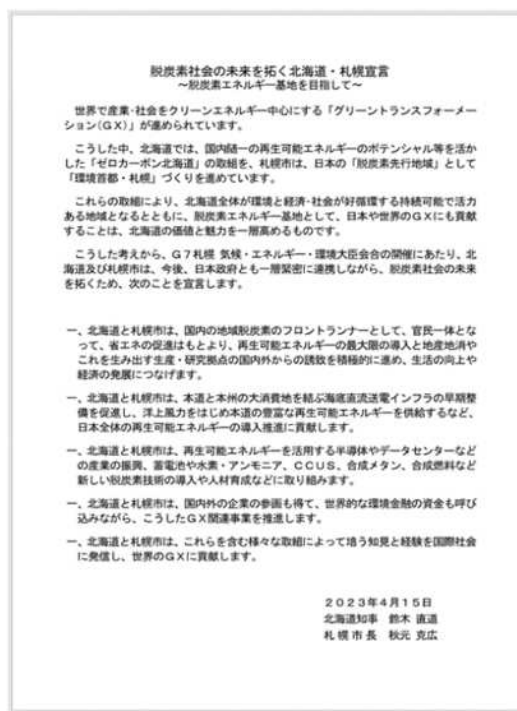
➡都市のサステナビリティ向上を通じた、国際観光振興・MICE誘致に注力、その一環として、都市の国際環境指標GDS-indexの評価向上に向けた取組

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（2022～2031）

➡持続可能で、多様性と包括性のある世界都市を目指し、「ユニバーサル」「ウェルネス」「スマート」を重要概念としたまちづくりの推進計画

脱炭素社会実現に向けた取組推進を掲げ「北海道・札幌宣言」_2023年

➡G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合を契機とした宣言



「北海道・札幌宣言」

<参考> 北海道・札幌のホスピタリティ①

(ユニークベニュー)

15

■ユニークベニューの提案

大倉山ジャンプ競技場（G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合においてエキスカージョン会場として活用）
オリンピックシティならではのスキージャンプ競技場貸し切り
特別感のあるレセプションを企画・提案
北海道産の旬の食材、お酒・ワイン、多様性ある料理提供



大倉山ジャンプ競技場



日本ホテルバーメンス協会 野田会長によるカクテル実演



ジャンパー目線でスタート地点に立つ特別な体験

＜参考＞北海道・札幌のホスピタリティ②

(エクスカーション)

16

■ 会議テーマに関連したエクスカーション

G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合

2023年4月14日～15日

参加者エクスカーション及びプレスツアーにおいて、モエレ沼公園 ガラスのピラミッドの雪冷房の取り組み視察や、白老・民族共生空間「ウポポイ」、国立アイヌ民族博物館を訪問。



モエレ沼公園 ガラスのピラミッド



ウポポイ 国立アイヌ民族博物館見学

東アジア文化遺産保存国際シンポジウム

2023年8月10日～13日

東アジア諸国の研究者が、ウポポイや国立アイヌ民族博物館、キウス周堤墓群等、アイヌ文化と縄文文化に関する文化遺産を訪問。



ガラスのピラミッド内部見学



ウポポイ(民族共生象徴空間)
提供:公益財団法人アイヌ民族文化財団

<参考> 北海道・札幌のホスピタリティ③

(エクスカーション／市民向けプログラム)

17

■ 会議テーマに関連したエクスカーション／市民向けプログラム

第35回国際電波科学連合総会

2023年8月19日～26日

エクスカーション

銀河の森天文台やSuperDARN 北海道－陸別HFレーダーを訪問。電波科学における研究者が最先端の世界でも希少な施設を見学。

体験型イベント

札幌と陸別の小学生が自分でラジオを製作し、電波の不思議さや面白さを体感するプログラム。双方の小学生をオンラインでつなぎ、交流も行った。札幌市青少年科学館による科学ショーも実施。



銀河の森天文台



白金青い池



科学教室「ラジオを作ろう」



科学教室「ラジオを作ろう」